

| |
|--------|
| こもれび学級 |
| 自立活動 |

| | |
|---|-----------------------------|
| 相手を大切にしたコミュニケーション力を育む集団活動 「みんなが楽しめるように工夫して活動しよう」 | |
| 日 時 | 令和元年9月30日（月）2校時 |
| 場 所 | 体育館 |
| 児 童 | こもれび学級7名（3年生3名、4年生2名、5年生2名） |
| 授業者 | 森 愛（T1） 齊藤 早苗（T2） |

1 題材について・児童の実態

（1）題材について

こもれび学級の自立活動では、児童の実態に即した小集団活動を行っている。さらに今年度は、たてわりの集団で活動することにより、「縦のつながり」「学級としての1つの集団」といった集団の中の一人である自分を意識できるようなグループ編成を行っている。児童については、他学年と学習することにより、上級生から下級生への譲り合いや声かけ、それをお手本として行動するような下級生の姿などが見られる場面があった。しかし、自分さえ楽しければいいという考え方や、やりたいこととやりたくないことで態度が変わってしまう自分本位な行動が見られる場面もある。

本題材では、自分のことだけではなく、周りのみんなのことも考えて活動するために大切なことについて考えていく。1学期の小集団活動（エンジョイ）では、ドッジボールやおにごっこなどの活動を通して、どうやったらみんなが楽しめるのかについて考えてきた。最初は自分だけが楽しんでしまう姿も見られたが、学習の中で児童から「下の学年には少し手加減する」「パスをもらっていない人にパスをまわす」などの意見が出され、みんなのことを考えながら遊びを楽しむことができるようになってきた。

本時は、その1学期での学習をふまえた時間になる。みんなで協力しなければならない活動の中で、自分が上手にできない時、上手にできない人に対してイライラしてしまう時、同じ人ばかりがやっている時など、7人全員が楽しめていない時にどのようなことに気を付けると、みんなが楽しめるかを考えていく。高学年が中心となってみんなで話し合い、考え合う時間にしたい。自分たちで考えたポイントを意識して活動することで、本当に楽しく活動できるかどうか実際に確かめていく。

（2）指導計画

| 時数 | 学習内容 | 学習のねらい |
|---------|--|--|
| 1 | 「みんなが楽しめるように工夫して活動しよう ～ ヘリウムリング ～」 | ・みんなが楽しめるようにするには、どんな工夫が必要かを考えることができる。 (せーの！などの声かけ など) |
| 2 | 「みんなが楽しく活動できるためのポイントを考えよう ～ 手つなぎバレー ～」 | ・みんなが楽しむためのポイントを考え、そのポイントを意識した活動をすることができる。 (励ましの声かけ、相手の名前を呼ぶ など) |
| 3 本時 | 「みんなが楽しく活動できるためのポイントを考えよう ～ 新聞パズル ～」 | ・みんなが楽しむためのポイントを考え、そのポイントを意識した活動をすることができる。 (チームのバランスを考える、協力して活動する など) |

（3）児童の実態

情緒学級は主に情緒面に課題がある児童（自閉症スペクトラム・ADHDなど）が中心となっているが、実態は多岐にわたっている。

こもれび学級のたてわりグループ③は、3年生3名、4年生2名、5年生2名の計7名が在籍しており、「我慢することが苦手」「気持ちのコントロールがうまくできない」「自分の気持ちを伝えることが苦手」「落ち着いて話が聞けない」などの実態がある。できないことがあると途中で投げ出してしまったり、自分の思い通りにならないと不機嫌になったり、自分のやりたいことばかりを優先してしまったりするなど、感情をコントロールできない児童が多い。小集団活動などでの学習を通して、仲良く遊ぶために大切なことを学んだり、相手の気持ちを考えて行動することを学んだりしているが、まだ課題は多く残っている。このような現状をふまえ、少人数指導、小集団活動、学級支援の学習形態でこれらの課題解決のための支援を行っている。

2 研究との関わり

本校の研究主題「学び合いを通して自分のよさに気づき、よりよく生きようとする子供の育成」には障がいのあるなしに関わらず、「一人一人の違いを受け入れ尊重することの大切さ」を理解し、その心を育てていきたいという願いが込められている。

この研究主題をうけて、本学級では、自己肯定感を育みながら、自己認知力・他者理解力・コミュニケーション力を高め、児童が互いに成長し合える基盤を作っていくと考えている。

本学級の児童は、障がいの程度や育ってきた環境などにより、社会性の獲得に何らかの困難を抱えており、集団生活の中で自然に社会的スキルを獲得することができないことが多い。このことの改善のためには、必要な社会的スキルを年齢に応じて積極的に学習する必要があることから、小集団活動や個別の指導場面でソーシャルスキル獲得のための支援のあり方や方法を研究し実践している。

以上のような児童の実態を受けて、課題である「コミュニケーション能力」と「自己統制（セルフコントロール）力」の向上のための支援を計画的に行っていきたいと考えている。

* 自立活動で学習する内容と道徳的実践力との関わり

| |
|---|
| ① <u>コミュニケーションの基本である「あいさつ」に関すること</u> (あいさつの言葉、表情、態度、場面や人に応じたあいさつ、など) 【道徳の内容項目B人との関わりに関すること（礼儀）に関連】 |
| ② <u>「自己認知」に関すること</u> (自分の体や生活を振り返る、自分の体のケアの仕方、自己紹介の仕方、自分の好きなこと、自分のよさをみつける、自分のことを伝える、など) 【道徳の内容項目A自分自身に関すること（節度・節制）（個性の伸長）に関連】 |
| ③ <u>「相互理解のための言葉・表現」に関すること</u> (ふわっと言葉とちくっと言葉、アサーティブな表現、自分の気持ちを伝える言い方、気持ちよい言葉遣い、高学年らしい言葉遣い) 【道徳内容項目B人との関わりに関すること（親切・思いやり）（友情・信頼）（礼儀）に関連】 |
| ④ <u>「相互理解のための気持ち認知」に関すること</u> (いろいろな気持ち、表情に表れる気持ち、隠れている気持ち、気持ちと行動、前向きな気持ち、など) 【道徳内容項目A自分自身に関すること（正直・誠実）に関連】 【道徳内容項目B人との関わりに関すること（親切・思いやり）に関連】 |
| ⑤ <u>「セルフコントロール／セルフマネジメント」に関すること</u> (ルールを守る・我慢する必要性、怒りを抑える方法、感情に対する対処方法、チャレンジすることの大切さ、自分を客観的に把握する、自己受容、など) 【道徳内容項目A自分自身に関すること（善悪の判断、自律、自由と責任）（正直・誠実）に関連】 |
| ⑥ <u>「相手を大切にしたコミュニケーション」に関すること</u> (伝え方、聞き方、助けの求め方、協力の仕方、質問の仕方、提案の仕方、頼み方・断り方、褒め方、配慮の仕方、共感することなど) 【道徳内容項目B人との関わりに関すること（親切・思いやり）（友情・信頼）（礼儀）に関連】 |

3 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・みんなが楽しむためのポイントを意識して活動することができる。

【自立活動内容区分3 項目（1）他者とのかかわりの基礎に関すること】

【道徳の内容項目と関連 内容項目C主として集団や社会との関わりに関すること

一よりよい学校生活、集団生活の充実】

(2) 本時の個別目標と必要な支援

指導・支援(評価)

| | 児童の実態 | 本時の個別目標 | 必要な支援 |
|---------|---|--|---|
| 3年 H | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いをもつことができるが、友達に自分から声をかけて交流することが苦手。 物事への取り組みに時間がかかるが、興味が湧くと意欲的になり、取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 指示や質問をしっかりと聞くことができる。 周りの様子をみながら、友達と関わり、進んで活動することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 指示が聞けているかその都度確認をし、学習に意欲的に参加できるように言葉かけをする。 |
| 3年 R | <ul style="list-style-type: none"> 苦手なことに否定的な言葉を出してしまうことがあるが、あきらめずに取り組み、やり終えることができる。 休み時間に友達と過ごせる時間が増えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 周りの様子を見ながら、友達と関わり、進んで活動に参加することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 周りの状況を理解しているか確認をする。 自分の考えをもてるように言葉かけをする。 |
| 3年 F | <ul style="list-style-type: none"> 発音が不明瞭な時があるが、丁寧に思ったことを伝えようとしている。 周囲の様子が気になることが多く、気が散りやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> 指示や質問を落ち着いて聞き、考えをもつことができる。 周囲の様子を見ながら、落ち着いて行動することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 指示を聞けるようにその都度言葉かけをしていく。 周りの状況を理解しているか確認をする。 |
| 4年 T | <ul style="list-style-type: none"> 話を聞いていないことが多く、指示を理解していない場面が見られる。 指示を明確に伝えるとしっかりと活動ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 全体指導や友達の発表をしっかりと聞き、活動することができる。 周りの様子を見ながら、友達と関わるすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 指示を聞けるようにその都度言葉かけをしていく。 指示の内容を理解しているか確認をする。 周りの状況を理解しているか確認をする。 |
| 4年 I | <ul style="list-style-type: none"> 自分のやり方、考え方を強くもっているため、周りのアドバイスや声掛けを素直に聞けない。 自分が嫌な相手には、露骨に嫌な態度をとる。 | <ul style="list-style-type: none"> 周りの意見を素直に聞くことができる。 相手の気持ちを考えた、行動や言動をとることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 周りの意見を素直に聞けたり、相手の気持ちを考えた行動、言動があったりした場合はその行動を褒め、認める。 |
| 5年 K | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを伝えることができるが、場の様子を考えずに、発表したり言葉を出したりしてしまうことがある。 友達などに指摘や注意をされた時に、すぐに聞き入れられず自分自身を責めたり否定したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> 5年生として下級生の様子を見ながら活動したり、自分の考えを進んで発表をしたりすることができる。 周りの意見を素直に聞くことができ、前向きな気持ちで考えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 周りの意見を素直に聞けたり、その意見について考えられたりできるように言葉かけをしていく。 落ち着いて話が聞けるよう、言葉かけをする。 |
| 5年 Y | <ul style="list-style-type: none"> 友達に自分の思いを伝えることが苦手。大人には少しずつ伝えられるようになってきた。 学習に気持ちが向かないことが多く、ステップタイムに参加できない時もある。 | <ul style="list-style-type: none"> 同じグループのみんなと一緒に活動することができる。 学習の内容を理解し、自分なりの考えをもつことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 安心して活動に参加できるように言葉かけを行う。 みんなの前で発表できない場合は本児の思いを聞き、みんなに伝えるようにする。 |

(3) 本時の展開

| | 児童の学習活動 | 教師のかかわり | ●支援の工夫 □評価 |
|--------------------------|--|--|---|
| 導入 10分 | 1 本時の活動内容を知る。 2 ウォーミングアップ ・ジェスチャーゲーム 7問中何問当てられるか | ・本時の学習の流れを確認し、学習の見通しをもたせる。 ・ジェスチャーゲームの問題提示と時間計測をする。 | ●落ち着いた児童には、学習に向かえるよう気持ちの切り替えを促す。 |
| 展開 25分 | 3 新聞パズルのやり方を知る。 4 1回目の活動を行う。 5 感想を交流する。 ・楽しかった。 ・上手にできなかった。 ・ほとんどやらせてもらえなかった。 6 本時のめあてを知る。 | ・新聞パズルのやり方を説明する。 ① 2つのチームに分かれる。 ② チームごとに新聞パズルを完成させていく ③ 4か所のパズルが完成したら、みんなでゴール。 ・1回目は特に助言せず、活動の様子を見守る。 ・1回目の活動を終えてみてどう思ったか、感想を聞く。 ・本時のめあてを確認する。 | ●理解しやすいように、実際に演示しながら説明する。 ●感想があまり出てこないようであれば、質問形式にし、感想を引き出せるようにする。 |
| みんなが楽しく活動できるためのポイントを考えよう | | | |
| 分 | 7 みんなが楽しく活動できるためには、どんなポイントに気を付けたらいいかを考える。 ・一人でやらないでみんなで協力してやる。 ・失敗しても怒らない。 ・メンバーの分け方を考える。 8 自分たちで考えたポイントを意識しながら、もう一度新聞パズルを行う。 9 ポイントを意識して活動できたかを振り返る。 | ・「みんなが楽しめるような」という言葉を強調し、気を付けるポイントを考えさせる。 ・同じ考えであってもいいことを伝え、全員に考えを発表させる。 ・自分たちで考えたポイントを一つずつ確認する。 | ●児童が発表したことを板書していく。 □自分の考えを発表することができたか。 【発表】 □自分たちで考えたポイントを意識して活動することができたか。 【活動】 |
| まとめ 10分 | 10 ふりかえりシートを使って本時の学習をまとめる。 みんなが楽しく活動できるためのポイント ・() ・() | ・本時の学習をまとめる。 | ●ふりかえりシートの記入で困っている児童にアドバイスをする。 □本時で学んだことを自分なりの言葉でまとめることができたか。 【ワークシート】 |

*主にT1は授業を進め、T2は板書・児童への言葉かけを中心に担当する。

(4) 本時の評価

- ・みんなが楽しむためのポイントを意識して活動することができたか。

(5) 板書計画

10/ ()

みんなが楽しく活動できるためのポイントを考えよう

①はじめのあいさつ

②ウォーミングアップ

③きょうのかつどう

④ふりかえり

⑤おわりのあいさつ

新聞パズル

- ① 2つのチームに分かれる。
- ② チームごとに新聞パズルを完成させていく。
- ③ 4つのパズルが完成したら、みんなでゴール

楽しかった
上手にできなかった
ほとんどできなかった



しっばいしてもおこらない
みんなで協力する
声をかけあう

みんなが楽しく活動できるためのポイント

- ・(みんなで声をかけ合う)
- ・(みんなで協力する)
- ・(しっばいしてもおこらない)
- ・(チーム分けを考える)

(6) 振り返りシート

ステップタイム ふりかえりシート (10/)

みんなが楽しく活動できるためのポイントを考えよう

名前()

1. 今日の学習のまとめを書きましょう。

みんなが楽しく活動できるポイント

- ・()
- ・()

2. 自分の気持ちに近いところに ○をつけましょう。

①みんなが楽しむためには どうしたらよいかを 考えることができた。

できなかった (☹) | | | (☺) よくできた

②話し合ったことを そのあとからやってみようと がんばることができた。

できなかった (☹) | | | (☺) よくできた

3. 今日の学習の「がんばりさん」を書きましょう。

友達の名前

理由は

かんそう